

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200370		
法人名	ステラリンク株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ今伊勢 東ユニット		
所在地	愛知県一宮市今伊勢町新神戸字九反野18-1		
自己評価作成日	平成28年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvoCd=2392200370-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

起床から就寝まで、ご利用者様お一人おひとりの生活習慣に合わせた支援を心がけており、支援が画一的なものにならないよう留意している。また、グループホームが私達の職場である前にご利用者様の居住空間であるという認識を持ち、その認識の元、居室を訪室する際のノックや出勤時のあいさつを徹底している。
 地域交流として自治会の運動会に参加するなど、入所されたことで地域とご利用者様の関係性が希薄なものとならないよう努めている。
 また、グループホームが地域の社会資源としての役割を担えるよう入所等の問い合わせがあった際は仮に居室が満室であってもできる限りのサポートや支援ができるように対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年9月にホーム長に着任し、利用者の第二の我が家となることを目指して、運営体制を整えている。要介護度の変化に伴い、全体支援の難しさに直面した事をきっかけに、個別支援の充実に力を注ぎ、利用者の満足度を上げている。また、グループホームの特性である、地域密着型施設としての役割を考え、地域資源としての役割を果たすべく、社会貢献を模索している。成果としては、運営推進会議でホームの社会貢献を話し合い、広い駐車場を活用できる、地域防災の中の一時避難場所として存在を広めてもらったり、子供会のラジオ体操の場所にしてもらったりと、具体的な取り組みにもつながりが出来ている。近隣の方への駐車場貸しから、ホームの本分である介護相談受付まで、「地域の困りごとはたんぼぼさんへ・・・」と言ってもらえる社会資源となれるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常日頃から意識統一を図るため、全スタッフがたんぼぼ理念10か条を携帯している。1日に1回職員間で読み合わせを行っている。	全職員が法人理念実現のための行動規範を常に携行し、理解を深める目的で理念マイスター検定制度が導入されている。理念に則ったホームの在り方を「地域に根差したもう一つの自宅」と表現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にも参加させて頂き、地域住人の方との交流ができるよう努めている。施設での行事を定期的に行い、地域の方をお誘いしている。自治会のイベントにも参加して地域交流を図っている。	地域主催の運動会や敬老会、清掃活動等に積極的に参加している。また、中学校の合唱隊や様々なボランティアが来訪し、夏休みには子供会のラジオ体操の場としてホーム駐車場を提供したりと、地域に根差した存在となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談には管理者・推進担当者を中心に随時対応している。入所問い合わせがあった際は入所が難しい状態でも気軽に相談して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度は必ず開催し、施設運営報告・近況報告を行っている。参加頂いた方からは助言・提案を頂き、運営に反映できるよう努めている。	ヒヤリハットも含めたホームの運営報告を軸に、参加者からは様々な助言や意見が寄せられ、活発な意見交換の場となっている。地域高齢者見守りの協力依頼を受ける等、地域の社会資源として貢献を考える場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市役所を訪問し施設運営に関する助言を得ながら運営している。地域運営推進会議に地域包括支援センターの方にもご参加頂き、必要な助言・提案を得ている。	地域包括支援センターと相互協力のもと、包括主催の認知症サポーター養成講座をホームで開催した。また、ホーム前で体調不良をおこした徘徊が疑われる高齢者を、市の福祉課との連携で保護し、無事に家族の元へ返せた貢献もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯対策としてのセキュリティはあるもののお客様が外に出られる際にはすぐにドアを開けるよう心がけている。	ホーム内で研修を実施し、言葉による拘束についても、日常支援の中で常に注意喚起を図っている。マニュアルに沿った研修実施が功を奏し、現場指導で正しい知識と理解を周知し、拘束の無い支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行動指針に虐待防止に関する項目を定め、ケアに活かす工夫を行っている。 虐待防止に関するマニュアルを作成し、入社時や法人内研修などにより啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名のご利用者様が成年後見制度を利用されている。担当者とは密に連絡をとり必要な知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時等、文面を用い起こりえるリスク等も含め説明を行っている。ご不明な点や不安がないよう疑問点等についてもお伺いし説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご参加頂いた際や、適宜ご来所頂いた際の聞き取りにて意見・要望を汲み上げ、随時検討し運営に反映させている。ご利用者様とは、個別に関わり合う時間を設け、ご意見を反映している。	家族の来訪は頻回で、不定期で開催される家族会、運営推進会議、面会、行事参加等、その都度家族意見の聴き取りを行っている。写真や月間予定、個別コメントを載せた家族便りは好評を得ており、ホームの情報提供を受けた意向や希望は本人本位の物となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各職員にケアへの意見を記入してもらい、月1回の会議資料に反映している。代表者は頻りに事業所に足を運び職員からの意見を聞くように努めている。定期的に個別面談を行い意見を聞いている。	月1回のユニット会議と社員会議を行い、意見や提案の聴き取りを行っている。管理者は挑戦することは素晴らしいとのスタンスに立って職員意見を聴取し、職員からは忌憚なく提言できるとの声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの能力を勘案し、努力が報われるしきみがある。また、各職員の長所や能力が発揮しやすいよう仕事上、各職員に独自の役割を提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には5日間の新人研修を受けてもらっている。法人内で様々な研修を行ったり、外部研修への参加も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設との交換実習を行い、情報交換やスキルアップを図っている。管理者はGH交流会に参加し、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の機会を設け、ご家族様の情報もお聞きしながら不安が軽減できるように努めている。また、心配事を気兼ねなくご相談頂けるよう適宜関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時等、ご家族様にはホームで出来ることの説明や、困っている事、不安な事等を伺いご安心頂けるように努め、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスを見極めた上で、必要とされている支援の選択肢が増えるように、同一法人内で定期的話の場を持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるように努めている。関係性の構築においては、共同での家事や談話、レクリエーション等を柱に築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所からの連絡やご家族様の来所時等に、現在の様子をお伝えすることや、ご家族様の情報提供等共に支えていく関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関わりが途絶えないよう、電話の取次ぎや手紙での関わり支援を行っている。いつでも気軽にご来所頂けるよう面会時間などに制約を設けていない。	友人が事業所を訪れたり、地域行事で声をかけられる等の旧知の関係は続いている。また、馴染みの店への買い物外出等を計画する積極的な支援がある。ホームでの生活の経過年数を考え、新しい馴染みづくりにも視野を向けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ご利用者様の相性等も考慮した上で、併設デイサービスも含め人間関係支援を行っている。各ユニット合同でのイベントも開催し、ご利用者様の関係支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を伺うことや入院中のお見舞い、ご家族様からの相談に随時応じ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやご家族様の情報提供等から、希望や意向の把握に努めている。全職員から定期的に情報シートの提出を求め、情報共有に生かしている。	居室担当職員が中心となり、利用者の意向の聴き取りを行っている。意思表示が難しい利用者に対しては、家族意見や生活歴を参考に思いの把握に努めている。掴んだ意向は情報シートに記入し、毎月のユニット会議で情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時はもちろんのこと、入所後であってもご家族様・ご友人の方を中心とした方々から生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者様に担当職員を設け、定期的アセスメントを基に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に関しては、サービス担当者会議を開催し、ご利用者様のご意向、ご家族様のご希望も含め介護計画に反映できるように努めている。	毎月居室担当職員がモニタリングを実施し、6か月ごとに計画の見直しを行っている。見直し時には家族、担当職員、計画作成者、管理者が参加したサービス担当者会議を開き、様々な角度から検討した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践が個別に記録でき、各職員で情報共有しやすいよう工夫している。職員の記録が介護計画に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニットケアを理解し、個々のニーズを出来る限り実現できるよう努めている。ニーズに対して画一的な見方ではなく、ご自身の立場に立って捉え、共感の姿勢で支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある地域資源の把握に努め、活用している。本人が心身の力を発揮しながら生活できるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのなじみのかかりつけ医の受診を希望される方については希望に応じ支援をしている。グループホームの提携医があり、1ヶ月に1回の往診の他、適宜連絡し、指示を仰げる体制を確保している。	ホーム協力医の月1回の往診を支援している。歯科の月2回の往診もあり、利用者と家族の安心にしている。馴染みのかかりつけ医や専門科への受診は原則家族対応となっており、相互の情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護師の配置はないが、この4月から看護師の配置及びより密な医療連携を目指している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリを作成し、入院に至る経緯や、最近のご様子・既往歴や現在お持ちの病気・内服薬等について出来る限り伝達している。入院後も定期的に面会に行くなど情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度中に重度化した際の確認書を記入して頂く予定がある。その他適宜ご家族様との話し合いによりケア方針を定めている。また、看取りケア終了後も、振り返りの場を設け更なる介護力向上に努めている。	利用者や家族の意向を最優先に考え、看取りも視野に入れながら個々の状況や状態に沿って、利用者にとっての最善の方法を検討し、方針を決定している。法人内の他施設移行等も含め、ホーム対応の限界を見極め、適切に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月19日に防災訓練を開催し、その中で急変時の対応について学ぶ機会を設けている。また、救急搬送時を想定し、電話の上で救急対応方法を貼り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練により、心肺蘇生法やADLの使用法について学んでいる。また、自治会で行われる防災訓練にも積極的に参加し、職員のスキルアップ・地域との連携を図っている。	消防署立ち合いの、消火・救命・避難訓練のほか、毎月19日にホーム独自の避難訓練を実施している。地域に向け、非常災害時には事業所を避難場所として提供することを提案し、併せて事業所への支援も依頼し、相互協力を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、ご利用者様の人格を尊重し、不適切な言葉かけがないよう努めている。また、訪室時、トイレ誘導時にノックするなどプライバシーの尊重に努めている。	職員自身が、明るい笑顔とポジティブな言葉で利用者に接し、画一的ではない一人ひとりを尊重した支援提供に取り組んでいる。利用者一人ひとりが役割を持って生活することで、その人らしさを引き出せるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴時間など自由に日常生活を組み立てていけるよう配慮している。出来る限り自己決定、自己実現が叶うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、お1人おひとりのペースや生活習慣・その日の想いを大切にしていけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様が季節に合わせたおしゃれを楽しめるよう、ご家族様にも協力を仰ぎ支援している。衣類の購入時にはできるだけご本人様と共に出かけ購入頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の関わりから聞き取りをし、嗜好や希望を踏まえた料理を提供している。食事作りや片付けを多くのご利用者様と行えるよう日々声かけに努めている。外食の機会も多く持つようにしている。	配食材業者を活用し、二つのユニットと併設のデイスサービスで分担して調理している。盛り付けはそれぞれが行い、利用者は様々な場面で活躍している。外食や行事食、おやつレクには利用者の希望メニューを取り入れ、食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの品数や栄養バランスを考慮している。各ご利用者様の食事摂取量を記録し把握に努めている。また、嚥下・咀嚼能力も考慮した食事形態にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご利用者様お1人おひとりに合わせた支援方法で、口腔ケアの援助を行っている。また、提携歯科に協力を仰ぎ口腔ケアの援助へのアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、個別排泄記録表にて記録・把握シケアに活かせるよう努めている。できる限り、トイレで排泄ができるよう居室にナースコールを設置するなどし対応している。	トイレでの排泄を大切に考え、必要に応じて声かけや誘導を支援している。羞恥心や個々のプライバシーに配慮し、研修で声のかけ方や支援方法を話し合い、共通意識で支援提供に当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況については毎日個々に把握した上で、便秘薬等により服薬のコントロールを行っている。便秘薬に頼り過ぎないように、常日頃からヨーグルトなど乳製品摂取の促進・体操や腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきの入浴を想定しているが、できる限りお1人おひとりのニーズに合わせて柔軟に対応している。時間帯に関しては無理強いの希望に添えるよう対応している。個々に嗜好に合わせて、入浴剤等も使用している。	毎日の入浴を提供し、個人毎には2日に1回の入浴を支援している。入浴の無い日には清拭と足浴で清潔保持に努め、入浴を拒む利用者には無理強いすることなく、声かけやタイミングを工夫する等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて、快適に安眠できるよう環境整備に努めている。個々のその日に体調を考慮し休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし、職員がいつでも閲覧できるようにしている。内服に変更があった際は、連絡ノート・処方箋ファイルなどに申し送ると共にできる限り職員に口頭で伝えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お1人おひとりの能力に応じ、共同生活上に役割を持った生活をお過ごし頂けるよう支援している。また、個々の嗜好に合わせた楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様の”その日・その時”のご希望に出来る限り添えるよう、画一的な業務内容マニュアルは作成せず、対応している。	花見や初詣などの季節に合わせた行事外出の他、一人ひとりの希望に沿った外出を大切にしている。その時その時の利用者の希望実現を最優先に考え、散歩や喫茶外出、買い物、外気浴等々、日常的な外出支援を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には、金銭の自己管理をして頂いている。ご本人様での金銭管理が難しい場合でも、“お金を使うこと”が途絶えないようお預かり方法を工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との関係性には配慮しつつ電話はある程度いつでもご自由に掛けて頂けるよう取り次いでいる。 携帯電話を所持されているご利用者様も見える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせての装飾や行事に参加した際の写真を展示するなど居心地のよい空間作りが創れるよう工夫している。	共有空間は、利用者と職員と一緒に掃除を行い、ハード面でもソフト面でも、ゆとりある空間づくりに努めている。毎月担当職員が季節を映し出す飾り付けを施し、利用者の写真や作品と共に楽しい生活を紹介している。ホームの環境や雰囲気にも、利用者家族の満足度も高い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の人間関係を考慮した上で、気の合う方との交流ができるよう席やテーブルの配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室がご自宅の延長線上に存在できるようにできるかぎり使い慣れた物の設置を依頼している。認知症の方にとって、「なじみの物」の重要性をご家族様にもお伝えし協力を依頼している。	テレビや家具、写真等持ち込みは様々で、利用者自身が作った標語や作品をたくさん飾る個性豊かな居室も視察することが出来た。馴染みの物品を思い思いに配置し、本人の居心地に配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面への配慮として必要な箇所には手すりなどを設置する一方、できることが継続して行えるよう自立度の高い方には階段をご使用頂くなどの支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200370		
法人名	ステラリンク株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ今伊勢 西ユニット		
所在地	愛知県一宮市今伊勢町新神戸字九反野18-1		
自己評価作成日	平成28年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JkyosyoCd=2392200370-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成28年 2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各お客様がその方らしくお過ごし頂けるよう、一人ひとりの嗜好や生活暦を踏まえ、役割ややりがいのある生活を送って頂けるよう支援している。また、オープンなフロアを活用し、お客様同士がコミュニケーションを図りながら自由に生活できるよう配慮している。
 地域交流として自治会の運動会に参加するなど、入所されたことで地域とお客様の関係性が希薄なものとならないよう努めている。
 また、グループホームが地域の社会資源としての役割を担えるよう入所等の問い合わせがあった際は仮に居室が満室であってもできる限りのサポートや支援ができるよう対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常日頃から意識統一を図るため、全スタッフがたんぼぼ理念10か条を携帯している。1日に1回職員間で読み合わせを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にも参加させて頂き、地域住人の方との交流ができるよう努めている。施設での行事を定期的に行い、地域の方をお誘いしている。自治会のイベントにも参加して地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談には管理者・推進担当者を中心に随時対応している。入所問い合わせがあった際は入所が難しい状態でも気軽に相談して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度は必ず開催し、施設運営報告・近況報告を行っている。参加頂いた方からは助言・提案を頂き、運営に反映できるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市役所を訪問し施設運営に関する助言を得ながら運営している。地域運営推進会議に地域包括支援センターの方にもご参加頂き、必要な助言・提案を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯対策としてのセキュリティーはあるもののお客様が外に出られる際にはすぐにドアを開けるよう心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	行動指針に虐待防止に関する項目を定め、ケアに活かす工夫を行っている。 虐待防止に関するマニュアルを作成し、入社時や法人内研修などにより啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名のご利用者様が成年後見制度を利用されている。担当者とは密に連絡をとり必要な知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時等、文面を用い起こりえるリスク等も含め説明を行っている。ご不明な点や不安がないよう疑問点等についてもお伺いし説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご参加頂いた際や、適宜ご来所頂いた際の聞き取りにて意見・要望を汲み上げ、随時検討し運営に反映させている。ご利用者様とは、個別に関わり合う時間を設け、ご意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各職員にケアへの意見を記入してもらい、月1回の会議資料に反映している。代表者は頻繁に事業所に足を運び職員からの意見を聞くように努めている。定期的に個別面談を行い意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの能力を勘案し、努力が報われるしくみがある。また、各職員の長所や能力が発揮しやすいよう仕事上、各職員に独自の役割を提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には5日間の新人研修を受けてもらっている。法人内で様々な研修を行ったり、外部研修への参加も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設との交換実習を行い、情報交換やスキルアップを図っている。管理者はGH交流会に参加し、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の機会を設け、ご家族様の情報もお聞きしながら不安が軽減できるように努めている。また、心配事を気兼ねなくご相談頂けるよう適宜関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時等、ご家族様にはホームで出来ることの説明や、困っている事、不安な事等を伺いご安心頂けるように努め、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスを見極めた上で、必要とされている支援の選択肢が増えるように、同一法人内で定期的話の場を持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるように努めている。関係性の構築においては、共同での家事や談話、レクリエーション等を柱に築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所からの連絡やご家族様の来所時等に、現在の様子をお伝えすることや、ご家族様の情報提供等共に支えていく関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関わりが途絶えないよう、電話の取次ぎや手紙での関わり支援を行っている。いつでも気軽にご来所頂けるよう面会時間などに制約を設けていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ご利用者様の相性等も考慮した上で、併設デイサービスも含め人間関係支援を行っている。各ユニット合同でのイベントも開催し、ご利用者様の関係支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後の様子を伺うことや入院中のお見舞い、ご家族様からの相談に随時応じ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやご家族様の情報提供等から、希望や意向の把握に努めている。全職員から定期的に情報シートの提出を求め、情報共有に生かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時はもちろんのこと、入所後であってもご家族様・ご友人の方を中心とした方々から生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者様に担当職員を設け、定期的アセスメントを基に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に関しては、サービス担当者会議を開催し、ご利用者様のご意向、ご家族様のご希望も含め介護計画に反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践が個別に記録でき、各職員で情報共有しやすいよう工夫している。職員の記録が介護計画に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニットケアを理解し、個々のニーズを出来る限り実現できるよう努めている。ニーズに対して画一的な見方ではなく、ご自身の立場に立って捉え、共感の姿勢で支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある地域資源の把握に努め、活用している。本人が心身の力を発揮しながら生活できるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのなじみのかかりつけ医の受診を希望される方については希望に応じ支援をしている。グループホームの提携医があり、1ヶ月に1回の往診の他、適宜連絡し、指示を仰げる体制を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護師の配置はないが、この4月から看護師の配置及びより密な医療連携を目指している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリを作成し、入院に至る経緯や、最近のご様子・既往歴や現在お持ちの病気・内服薬等について出来る限り伝達している。入院後も定期的に面会に行くなど情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度中に重度化した際の確認書を記入して頂く予定がある。その他適宜ご家族様との話し合いによりケア方針を定めている。また、看取りケア終了後も、振り返りの場を設け更なる介護力向上に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月19日に防災訓練を開催し、その中で急変時の対応について学ぶ機会を設けている。また、救急搬送時を想定し、電話の上で救急対応方法を貼り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練により、心肺蘇生法やA DLの使用方法について学んでいる。また、自治会で行われる防災訓練にも積極的に参加し、職員のスキルアップ・地域との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、ご利用者様の人格を尊重し、不適切な言葉かけがないよう努めている。また、訪室時、トイレ誘導時にノックするなどプライバシーの尊重に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつメニューやレクリエーション内容の相談を通じて、各ご利用様が自由に日常生活を組み立てていけるよう配慮している。出来る限り自己決定、自己実現が叶うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、お1人おひとりのペースや生活習慣・その日の想いを大切にしていけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様が季節に合わせたおしゃれを楽しめるよう、ご家族様にも協力を仰ぎ支援している。衣類の購入時にはできるだけご本人様と共に出かけ購入頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の関わりから聞き取りをし、嗜好や希望を踏まえた料理を提供している。食事作りや片付けを多くのご利用者様と行えるよう日々声かけに努めている。外食の機会も持つようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者との連携によりメニューの品数や栄養バランスを考慮している。各ご利用者様の食事摂取量を記録し把握に努めている。また、嚥下・咀嚼能力も考慮した食事形態にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご利用者様お1人おひとりに合わせた支援方法で、口腔ケアの援助を行っている。また、提携歯科に協力を仰ぎ口腔ケアの援助へのアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、トイレで排泄ができるよう居室にナースコールを設置するなどに対応している。排泄パターンの把握の為24時間排泄の記録をとっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況については毎日個々に把握した上で、便秘薬等により服薬のコントロールを行っている。便秘薬に頼り過ぎないように、常日頃から水分摂取の促進・体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきの入浴を想定しているが、できる限りお1人おひとりのニーズに合わせて柔軟に対応している。時間帯に関してもできる限りご希望に添えるよう対応している。個々に嗜好に合わせ、入浴剤等も使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて、快適に安眠できるよう環境整備に努めている。個々のその日に体調を考慮し休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし、職員がいつでも閲覧できるようにしている。内服に変更があった際は、連絡ノート・処方箋ファイルなどに申し送ると共にできる限り職員に口頭で伝えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お1人おひとりの能力に応じ、共同生活上に役割を持った生活をお過ごし頂けるよう支援している。また、個々の嗜好に合わせた楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様の”その日・その時”のご希望に出来る限り添えるよう、画一的な業務内容マニュアルは作成せず、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には、金銭の自己管理をして頂いている。ご本人様での金銭管理が難しい場合でも、“お金を使うこと”が途絶えないようお預かり方法を工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との関係性には配慮しつつ電話はある程度いつでもご自由に掛けて頂けるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせての装飾や行事に参加した際の写真を展示するなど居心地のよい空間作りが創れるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でもご利用者様の関係性に配慮し、テーブル席を提案している。また、他ユニットへも自由に行き来できるよう適宜お誘いしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室がご自宅の延長線上に存在できるようにできるかぎり使い慣れた物の設置を依頼している。認知症の方にとって、「なじみの物」の重要性をご家族様にもお伝えし協力を依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面への配慮として必要な箇所には手すりなどを設置する一方、できることが継続して行えるよう自立度の高い方には階段をご使用頂くなどの支援を行っている。		